

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	西村 理宇
論文担当者	主査 吉村 紳一
	副査 新村 健
	副査 中込 隆之
学位論文名	Change in chorda tympani nerve function after two-stage tympanoplasty for cholesteatoma (中耳真珠腫に対する段階的鼓室形成が鼓索神経機能に及ぼす影響)
<p>真珠腫に対する外耳道後壁保存型鼓室形成術は生理的な外耳形態が維持されるが、真珠腫遺残が懸念されるため、遺残の可能性がある場合は段階手術を選択している。鼓索神経障害は中耳手術の主要合併症であり、段階手術では鼓索神経が損傷されやすいと推察される。申請者らは過去に真珠腫の段階手術と鼓索神経障害に関する報告はないため検討を行った。</p> <p>対象と方法：2019年4月から2022年4月までにCWUTによる段階手術を行った335例（男性24名、女性11名、平均年齢44.1歳）を対象とした。1次手術では乳突削開術を施行して真珠腫を摘出し、1年後の2次手術で遺残真珠腫確認と伝音再建を行った。鼓索神経の操作で軽度接触群、高度接触群、切断群に分類し、術中所見と術後味覚障害、電気味覚閾値について検討した。</p> <p>結果：1次手術中の鼓索神経操作は、37.1%（13/35）が軽度接触群、28.6%（10/35）が高度接触群、34.3%が切断群に該当し、軽度接触群では有意に後鼓室開放の選択率が高かった（$p=0.003$）。術後の味覚障害出現率は軽度接触群66.7%、高度接触群77.8%、切断群75.0%であったが、術後6か月には軽度接触群16.6%、高度接触群11.1%、切断群8.3%まで改善した。2次手術後の味覚障害出現率は、術後2日目で温存群17.6%、切断群15.4%と1次手術後より低かった。術後3か月では温存群では多くの症例で改善したが、切断群は改善に乏しかった。考察：真珠腫のCWUTにおいて、軽度接触群では、多くの症例が後鼓室開放術で処理されており、外耳道後壁を保存する術式が鼓索神経の保護に有効と考えられた。2次手術では94.4%の症例で鼓索神経が温存された。2次手術後は味覚障害が有意に少ないことが示された。1次手術で鼓索神経が温存された場合も2次手術で鼓索神経障害を受けにくい可能性が示唆された</p> <p>本研究では真珠腫の段階手術が鼓索神経温存し、再発率を抑えるために有効であることを示唆しており、学位に値すると判断した。</p>	